

視点(1703)

(流通理論編)

I Saw All Korea (その7) !!

— 韓国流通業への進出の醍醐味 (その①) —

韓国経済は多くの課題を解決する時期に来ており、今後の韓国経済は今までの経済的底力のない状態でこのまま進むと大変な危機になります。日本も1980年代にまだ本当の経済的底力のない状態で“Japan as No.1”と誇り、その後、アメリカの経済的底力に屈することになりました。しかし、韓国経済は日本をパートナーとし、「自国のみが有利になる出し抜き商法」をやめ、**日本と韓国が互いに協力関係と文化的な関係を保つならば、ともに世界に誇る友好同盟に基づく強力な経済国家**になれます。

今後、韓国経済は今までの勢いを保つことができないのではないかとという危機感がありますが、私は今が日本企業の韓国進出のチャンスと見ています。中国進出においても若干の様子見は必要ですが、13億の人口が1人当たり10,000ドル(現在5,000ドル)の豊かな生活大国になれば、巨大な消費需要が見込まれます(ただし、中国は民主国家と文化国家にならなければなりません。民主国家と文化国家になった時に中国経済は、まさに世界一となります。その時期は2035年ごろと推定されます)。

韓国経済(当然ながら、韓国の流通・小売り・S C等)も変革期です。今までの20世紀型の産業振興によるグローバル化したエリート企業の育成や支援による韓国経済の発展は限界に来ています。グローバル化したエリート企業である財閥の発展により、本来ならば国民の生活を豊かにする波及効果が必ずしも十分に起こっていません。しかし、これからの韓国経済は、国内需要の成長と一体化したグローバル経済の道を歩むことが推定されます。

私は、韓国経済の今後2~3年の変革期が、「日本の流通企業の進出の絶好のチャンス」と見ています。その理由は次の通りです(六車流:マーケティング理論)。

①日本と韓国の流通上の経済時差が20年間存在する

アメリカの流通は日本より形(見た目)では5~10年先に進んでいるように見えますが、メカニズム(成立性や成功ノウハウの視点で見る現象)では20~30年もアメリカは日本より先に進んでいます。日本と韓国も、見た目(形)は日本の流通が5~10年先に進んでいるように見えますが、実際はメカニズム的に見ると日本の流通は15~20年先に進んでいます。それゆえに韓国の流通は、メカニズム的に見ると日本の1980~1990年代です。これは、まだS Cや業態がモノとしての形で開発しているレベルで、深みのある完成度の高いレベルではありません。流通歴(流通上の成功メカニズムの歴史)は、アメリカ→日本→韓国→中国へと10年から20年間のタイムラグを持って進化しています。我々、日本の流通人がアメリカで学び日本で実践した流通ノウハウを、比較的近いレベルで消費が成熟している韓国に進出し、かつ実践することは大きなビジネスチャンスとなります。

②韓国で醍醐味のある流通進出ができる

多くの日本の流通企業は、外国で「失敗」か「泣かず飛ばす」「まあまあ順調」のレベルが多く、アメリカで学び日本で実践し、日本の実践の中で成功・失敗の経験のノウハウ歴を活かした企業は少ないのが現状です。日本の多くの中国への進出やアメリカの世界に誇るウォルマートスーパーセンター(世界で40兆円の売上の流通企業)も、他国では決して自国で発揮した成功を具体的に実現していません。過去の日本の歴史の中で「知らなかったからできなかった」「知っていたが、固有の事情があつてできなかった」「知っていたが、ノウハウ不足で失敗した」…等の「悔やみ事やチャンス逃し」を日本より後進流通国家に進出してそうならないように自らの成功ノウハウで確立させることができます。これを醍醐味のある海外進出と言います。まさに、韓国では醍醐味のある流通進出が可能となります。

(流通とS C・私の視点 1704へ続く)

(株)ダイナミックマーケティング社⁺

代表 六車 秀之